

注目の金融 IT ソリューションが続々展示

31 のブースで行われた金融 IT ソリューションの展示コーナー「Market Solution Open Days」では、注目ベンダーによる最先端のソリューションが展示された。

システムインテグレーション事業で日本最大手の株式会社 NTT データは、金融機関が抱える経営課題を解消するソリューションを展示。預金や貸出といった預貸系取引と債券やオフバランス取引といった市場系取引を統合的に管理する市場リスク・ALM 管理ソリューション「Banking Analyze Master®」と、5 つの適格格付を横断的に提供するソリューション「Global Rating Master® (GRM)」のデモを実施。担当者は「これらのシステムの導入によりリスク管理の高度化が図れ、業務効率も大幅に向上します」とアピールした。

新日鉄の出資によって誕生した新日鉄ソリューションズ株式会社は、コモディティを中心とした新たな商品取引の拡大に着目した「コモディティ・リスク管理システム」を出展。現物商品、上場商品、デリバティブ商品を一括管理し、きめ細かなリスク管理を実現するシステムを提案した。「原油、ガソリン、灯油、軽油等を扱う電力業界、エネルギー業界に対し、精密にリスクを計測するソリューションを提案していきます」と担当者は話す。

証券フロントシステムの構築業務や、情報セキュリティ業務における高機能なプラットフォーム製品を提供している株式会社インテリジェントウェイブは、証券取引所に発注する注文情報や約定情報を高速に送受信する取引所接続ゲートウェイパッケージ「Will-Trade」や、通信ミドルウェア「RIX」など証券会社向け市況情報配信システムのほか、アルゴトレードの高速処理エンジンを用いた市況情報配信システム「Financial Application Core Engine (FACE)」を出展。さらに、代理店契約を締結している米国 OneMarketData 社のティックデータベース / CEP エンジン「OneTick/OneTick CEP」を展示し、大量のデータ配信と高速処理をアピールしていた。担当者は「当社の強みは柔軟なインテグレーション力です。各種ソリューションを組み合わせることで、最適な証券フロントシステムを提供していきます」と話す。

世界 70 カ国以上、25,000 社を超えるユーザーにソフトウェア IT サービスを提供している SUNGARD は、クロスアセットで STP に対応し、グローバルオペレーションに適したトレーディングソリューション「Front Arena」と、市場リスク、信用リスク、担保管理を含むリスクを管理と業務管理ソリューションを提供する「Adaptiv」シリーズを紹介していた。「トレーディングソリューションとリスク管理ソリューションの 2 本柱で営業を強化していきます」と担当者は話した。

その他にも東京証券取引所や大阪証券取引所などによる取扱商品の紹介のほか、国内外のベンダーによる先進的なソリューションが多数紹介され、いずれのブースも活況を呈していた。

(以上)
